

## 旧契約から新契約に

(ヨハネ3・16～21)

## 一、旧契約と新契約

私たちはなぜ「旧約聖書」「新約聖書」ということばを使うのでしょうか。理由は、コリント人への手紙第二3章6節で「**神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました**」と使徒パウロが語ったからです。「**新しい契約**」、すなわち「**新契約**」、これを縮めて「**新約**」ということばが出てきたからには、それ以前の、キリストが生まれられる前の時代の契約を「**旧契約**」、すなわち「**旧約**」と呼ぶようになりました。

3章14節にこうあります。へしかし、イスラエルの子らの理解は鈍くなりました。今日に至るまで、古い契約が朗読されるときには、同じ覆いが掛けられたままで、取りのけられていません。それはキリストによって取り除かれるものだからです」と。興味深いのは、「**新しい契約**」も「**古い契約**」も、元のテキストを見ますと、「**契約**」ということばが単数形で書かれていることです。「**新しい契約**」が単数形であるのは納得できますが、「**古い契約**」の「**契約**」も単数形で書かれているのは、意外に感じられます。と言いますのは、旧約聖書にはいくつかの契約が出てくるからです。神である主が人(アダム)と交わした契

約、神がノアと交わした契約、主がアブラハムと交わした契約、その契約はイスサク、ヤコブに引き継がれ、主がモーセを介してイスラエルと交わされたシナイ契約、そして主がダビデと交わされた契約と、複数あるからです。ですがパウロは、それらを指して「**古い契約**」と単数形で呼び、一括りにしてしまいました。もっとも、私たちが主イエス・キリストを信じるという新契約は、旧契約を無視した「別もの」ではなく、旧契約が御子イエス・キリストの恵みによって実現しているという面があることを忘れてはなりません。

## 二、旧契約から新契約に

ヨハネの福音書3章16節を見てまいります。「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」とあります。このことばを語ったのはだれでしょうか。日本語訳聖書の多くは、3章15節の終わりに力ギ括弧を付けて、イエスさまが語られたことばを終了させています。ですが、フランススコ会訳と新共同訳は15節の終わりに力ギ括弧を置いていません。すなわち、イエスさまが語られたことばとして訳しています。では、3章16節を語ったのはだれでしょうか。私は、聖書記者ヨハネと聖霊であると受け止

めています。ヨハネの福音書は、非常に成熟した福音書でありまして、この聖句に「**新しい契約**」があり、その中心は、御子イエス・キリストを信じることでありと示しています。それによって「**罪**」という、神に敵対する得体の知れぬ力によって引き起こされた数々の罪過が赦され、「**罪**」の力から解放され、「永遠のいのち」という、神のいのちに生かされることを語っています。そして人は、主イエス・キリストを信じることの信仰表明として、水のバプテスマを受け、聖餐に与る教会生活が始まります。

## 三、新契約に生きる教会

聖書を読みますと、特にヨハネの福音書を読みますと、「**光**」と「**闇**」ということばが多く出てまいります。その場合の「**光**」とは、私共が目にする物理的な光とはニュアンスが異なります。「**光**」は神の領域です。「**闇**」は単なる暗闇ではなく、神に敵対する力、悪魔が暗躍する世界です。そのように受け取りますと、「**闇**」ができたのは天地創造の時からであったと、受け止めることができます。創世記1章3節から5節に、こうあります。「**創世記1・3～5**」と啓示されています。「**神が闇をも造られた**」と私が語ったなり、「**いいえ、神は光であり、神には闇が全くない**」(ヨハネ1・5)とおっしゃる反応が出てくると思います。ですが創世記

に、神が「**光、あれ**」と仰せられ、光と闇を分けられたとありますから、闇は光の副産物として生まれたと受け止めたらいかがでしょうか。

ということは、私なりの理解ですが、世の中には悪い人間があり、この世には闇があるということです。もちろん、深い闇に捉えられていた人間であつても、キリストを信じるなら、神の恵みによって引き上げられて、闇の支配から光の支配に移ることも事実です。そのような思いを持って、3章17節をご覧ください。「**神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。**」とあります。ちなみに16節、17節、19節の「**世**」は、「**人が住む世界**」のことです。多くの場合に「**世**」は、悪魔の支配下にある世界の意味で語られています。ここでは珍しく、神の愛の対象としての意味で語られています。ゆえに、キリストの善き知らせを理解した上で、それを拒絶するならば、さばかれるわけです。18節、19節です。「**3・18～19**」さばかれるとは、くり返しになります。その人がキリストの善き知らせを理解した上で、それを拒絶する場合です。こちらが一方的に語って、相手が理解してないのに決断を迫り、相手の方が「**分からない**」と答えたら、「**あなたはさばかれています**」と決めつけるものではありません。